

令和5年度第1回練馬区食育推進ネットワーク会議（第9期）会議要録

1 開催日時

令和5年7月21日(金)午後2時～4時

2 開催場所

練馬区役所 本庁舎 1905 会議室

3 出席者

委員長 健康部長

副委員長 健康部健康推進課長

委員 市川委員、太田委員、秋山委員、田原委員、
増子委員、小倉委員、中山委員、中川委員、若林委員、
高野委員

幹事 大泉保健相談所長、清掃リサイクル課清掃事業係長、
保健給食課学校給食係長、保育科保育所給食係長、
生活衛生課食品衛生担当係長、健康推進課健康づくり係長
健康推進課歯科保健担当係長

事務局 健康推進課栄養食育係3名、石神井保健相談所栄養担当係長、

欠席委員 田中委員、鈴木委員、野澤委員、都市農業課農業振興係長、

4 公開の可否 公開

5 傍聴者数 0名

6 配付資料

資料1-1 練馬区食育推進ネットワーク会議（第9期）委員名簿

資料1-2 練馬区食育推進ネットワーク会議（第9期）幹事名簿

資料2-1 練馬区食育推進ネットワーク会議（第1期～第8期）の活動内容

資料2-2 練馬区食育推進ボランティアの育成および活動支援について

資料2-3 「ちゃんとごはん」プロジェクトについて

資料2-4 ねりまの食育応援店事業について

資料2-5 「若い世代」への食育（大学との連携）について

資料3 練馬区食育推進ネットワーク会議（第9期）活動について（案）

資料4 練馬区食育推進ネットワーク会議第9期1年目 会議日程（案）

参考1 冊子「ちゃんとごはん」

参考2 冊子「ねりまの食育応援店」

参考3 練馬区立リサイクルセンター情報紙「ゆずりは」

参考4 フードドライブ事業チラシ

7 会議要録

(1) 開会

(委員長) それでは令和5年度第1回練馬区食育推進ネットワーク会議を始めます。よろしくお願いいたします。

会に先立ちましてお願いがあります。この会議は「練馬区の付属機関等の会議の公開および区民公募に関する指針」により原則公開であり、傍聴も可能です。

また、会議録は要点記録として公開しますので、本日の会議は録音をしています。ご了承ください。会議録の中の表記は、発言者名は特定せず、委員長、委員といった形で表記をします。

初めに、令和5年度第1回練馬区食育推進ネットワーク会議の委嘱です。委嘱状の机上配布により委嘱に代えさせていただきます。委嘱期間は、本日から令和7年3月31日までです。よろしくお願いいたします。次第の2、委員長の挨拶です。

改めましてこんにちは。本日は食育推進ネットワーク会議に、暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。ここ最近コロナ禍で会議が開催しづらい状況が続いていました。昨年、この会議は一度書面での開催、それ以外は対面で行いましたが、徐々にコロナも収まってきて、本来の形に戻りつつあります。

食育については、特に、子どもたちの食事の大切さが言われています。コロナ禍が収まって改めて、しっかりと見直しをしていきたいと考えています。お忙しい中恐縮ですが、区民の皆様、また食育関係団体の皆様から、ぜひ闊達なご意見をいただき、練馬区における食育はどうあるべきか議論していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

次第の3、委員、幹事の紹介で、お手元の資料1-1、および1-2、今回の委員名簿をご覧ください。名簿の掲載順にご紹介します。

〈各委員による自己紹介〉

(委員長) 区職員の幹事の紹介です。資料1-2をご覧ください。4、案件1) 練馬区食育推進ネットワーク会議における取り組み、資料2-1から2-5の説明をお願いします。

(事務局) 資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5の説明

(委員長) 資料2-1で、過去15年間の取り組みを振り返り、3期までが普及啓発期、第4期以降は実践へと移行、第6期以降が対象を絞って、より効果的な方法を模索して実践しました。資料2-2から2-5で、それぞれの事業を詳細に説明しました。ご質問やご意見等いかがですか。

(委員) 食育というのは食べることだけですか。

(事務局) 例えば、食文化の継承です。現代は食の洋風化が進み、ご飯と具沢山の味噌汁、焼き魚、漬物といった、昔から食べてきた和食を食べる人が減ってきました。ユネスコの世界遺産に和食が登録された背景に、日本は四季があり南北に国土が長いので、食材や調理法が豊富で、水を生かした調理法に特徴があります。また、お月見やおせち等の行事食で、食文化を継承する。そして健康的な食事。一汁一菜、二菜、三菜のバランスの良い食事を意識せず普通に食べている、それが素晴らしいということがあげられています。

日本の食文化が消えていく傾向にあり、あえて登録をして次の世代に継承していく、食育

を家庭の中だけでなく地域や行政も含めて推進していくことになりました。食べるということの背景には様々な要素を含んでいると感じます。

(委員) 例えば、野菜はすぐに食べられる大きさにならないが、子どもたちに聞いてもわからない子が多い。種を植えてから実までの過程や、美味しく食べられる野菜の旬を、子どもや若い母親に知ってほしい。私は農協をよく利用していますが、畑の野菜の実りで季節がわかります。子どもが小さいときから、肉は成形した状態で存在しない、魚も成長するまで時間がかかる、その過程を説明したら、食べることをもっと大切にすると考えています。

(委員長) 素敵なお意見をありがとうございます。練馬区は都市農業があり、身近な畑で野菜が育って見る場面がたくさんあります。今後、会議でもしっかり検討していきたいところです。

(委員) 野菜も一番おいしい時期を知ることで、旬という言葉の意味をもっと身近に感じると思います。

(委員長) 背景にある文化や、野菜を含めた食物はどのように流通して食卓に上がっているのか、その過程を考えることも食育の中では必要だと考えます。

(委員) 牛乳パックを使ってスプラウトを植え、育つ姿を楽しむといった取り組みを知っています。親子で体験することで、野菜の育ちを身近に感じることができるそうです。他にも手作り味噌。豆と麹と塩で味噌を仕込み、完成までの過程を観察して半年後に食べる。農協さんではそのような体験ができる取り組みはありますか？

(委員) 農協では、昨年度から練馬区の「高松みらいのはたけ」で野菜を作って収穫するという取り組みを実施しています。今年度からは、最初に種をまいて、その後に間引きや剪定等の中間管理作業も行い、その後に収穫して持ち帰って食べる。参加者の感想に、「こんなふうにするなんて、今まで知らなかった」。農家さんが実施するのは負担ですが、農協なら可能ということです。ぜひ、皆さんにも見ていただきたいと思っています。

(委員長) そのような事業も始まり、私も初めて何うことも多かったです。

案件4-2) 食育推進ネットワーク会議 第9期活動について資料3の説明を事務局からお願いします。

(事務局) 資料3の説明

(委員長) 資料2-2から2-5まで、第9期の活動計画についても説明がありました。この資料に関してご意見等いかがですか。

(委員) 食育推進ボランティアは、練馬区で講座を受けた方ということですか。他にもいろいろな形で食育に関わっている人がいる、例えば食育インストラクター、私も女子栄養大学の食育指導士を取りました。これから始めたい方、グループで活動している方、料理教室を運営している方等、多様性のある仲間をボランティアとして、83名の活動者を100名、200名と、もっと増やしていくことが大事なことだと思います。

(事務局) 83名の中には教員として働いていた方や家庭科の先生、栄養士さん、家庭の主婦の方、子ども食堂で活動している方、食育推進ボランティアの活動はできないけれど、独自に行っている活動に生かしたい、という方もいらっしゃいます。

食育推進ボランティア講座でも、もっと区内全体に食育を広めていくためには、私たち行政だけで取り組むのではなく、皆さんの活動も教えていただき、何かできることがあったら一緒に活動したい、とお願いしています。

(委員) 現状課題は少々ショッキングなデータですが、どれぐらいの人数が対象でどのような方法で調査したのでしょうか。令和5年度も実施予定ということでその点について教えてください。

(事務局) 平成30年度練馬区健康実態調査報告書は、練馬区健康づくり総合計画の次期計画の策定にあたり、区民の健康実態、現状を調査し、その結果から得られる区民の健康状態、生活習慣、健康意識、地域における健康づくり活動への参加意欲等を的確に把握することを目的としています。

調査方法は、調査票を郵送配布、郵送回収。調査期間は平成30年11月22日～12月6日まで、調査対象は、20歳以上の区内在住3000人を無作為抽出、同一世帯に複数の調査票を送付しないよう配慮し、住民基本台帳より性別年齢地区による層化無作為抽出を行いました。有効回収率及び回収率1528人有効回収率は50.9%となっています。

(委員) 令和5年度も同じ規模で行う予定ですか。

(副委員長) 食育だけでなく、幅広い健康づくりを目的として栄養や睡眠、喫煙、運動習慣等、様々な質問項目を設けて、実態を把握し次期計画を策定するための基礎的な資料です。今年度も同様の調査をして前回と比較することも考えています。

(委員長) 区が実施する調査では、回答が1000あれば大まかな傾向が見えてきます。今回は5割の回収でしたが、通常は約3割の回収が多いようです。

この会議は1年間で4回開催します。今期、部会で検討するテーマを2つ提案しました。事務局が提示した活動案でよいかどうかも含めてご意見いただけますか。

(委員) 基本はこの(1)(2)の案に沿って、これ以外の新たなところに関して今期はないということでしょうか。

(事務局) 何か検討事項が出た際には、皆さんに投げかける形を取りますが、当初はこれでスタートしていきたいと思っています。

(委員) わかりました。以前、若い世代の部会は覚えているのですが、大学との連携とは具体的に何か進んでいますか。区内の大学との連携は現在進んでいないということですか。

(事務局) これから検討していく予定です。練馬区内に栄養学専攻の大学はないので、連携先も含めて皆様にご相談したいと思っています。

(委員) 以前、武蔵大学に学祭等で何かアプローチができるかという意見がありましたが、大学生と限定せず、若い世代全般へのアプローチを検討するというで理解しました。

(委員長) 委員いかがですか。

(委員) 保育園で若い世代というと保護者、就労している方がほとんどなので、忙しい中で子育てをしていらっしゃる。子どもの食事や自分たちの食事等、興味がないわけでは決してない。いろいろな良いイベントがあっても、知る時間や行く時間のない方々が多いというのが現状です。

先日、各保育園宛てに防災親子教室の案内が来ましたので、園の行事として8月の土曜日に開催したところ、たくさんの方の参加がありました。場や情報を提供すると参加いただけるのでイベントの周知をするだけでもよい。ボランティアさんを活用した地域との連携、保育園という場所も使って、そういった取り組みをしていただきたい。

バランスの良い食事について、保育園では子どもたちに無理して食べなくてよいと伝えていますが、ともすると「ばかり食べ」になってそれでもよいと保護者も子どもも思っています。食育という大切なことを伝える機会は大事だと思います。

夕方に栄養の整ったお弁当を販売している保育園もあるそうです。今まで保育園では、親が一生懸命作り、子どもと一緒に食べることを推奨してきましたが、それよりも子どもとたくさん関わって、バランスの良い食事を手軽にとる方に考えがシフトしています。食育応援店さんとそういった取り組みを連携していきたい。ニーズも非常に高いし、お互いウィンウィンの関係になると思います。

(事務局) そういった取り組みについていろいろと教えてください。

(委員) ねりまの食育応援店冊子はどのような所に置いてあるのでしょうか。

(事務局) こちらに登録している応援店に配布しています。他には図書館や石神井と練馬にある観光案内所2か所、区役所のアトリウムにも置いています。

(委員) 年配の方や若い人も利用する郵便局に置けませんか。

(事務局) 人気の冊子のため追加の依頼が多く、8月末までに在庫が無くなる予定です。確かに多くの方に手に取ってもらうことが重要だと思っております。ご意見ありがとうございます。

(委員長) 今後、増刷も検討していきたいと思っています。

(委員) 令和2年～令和6年度の計画の中には、食品ロスの削減の取り組みがありますが、第9期では触れていないのでしょうか。食育の推進にはいろいろな観点がありますが、食品ロスの削減は大事だと思っています。

日本の食料自給率が38%ぐらいと言われている中で、世界ロス大国と言われるくらい食品ロスが多い。農協の中でも、近年直売所に出されたものや、かつては農業祭等の品評会で宝船、その野菜を配布していたものを、昨年からは全部子ども食堂に寄付しています。また組合員さん農業者の畑でも、出荷に当たらないものは畑の中で失われてしまう、表に出ない食品ロスだったりします。この食品ロスの取り組みは、今後子どもたちに伝えていく上で重要だと思っています。

(事務局) 例えば「ちゃんとごはん」で、空き時間に食品ロスや「もったいない」等の話を入れたいと検討をしています。実際「ちゃんとごはん」の中でもJ Aさんから野菜を、清掃リサイクル課から食材をいただいていますので、今日の食材はどのような過程を経て子どもたちの口に入るかを伝えていきたいと思っています。食育推進ボランティアの方が、そのような話をしてくださると大変ありがたいと思います。

(委員) 子ども食堂の方との打ち合わせで、実は子ども食堂に提供している量より、家計が苦しい家庭への配布量が、練馬区も多いという話を聞いています。そういった方も実は練馬区の中に

多くいることを伝えていくことも大事だと思っていますので、検討していただきたい。

(委員) 小中学校では食品ロスの教育を熱心に行っているようです。学校に何うと廊下に食品ロスの情報がたくさんあります。また、自分たちの未来に関わることなので、食品ロスも含めた食生活で何ができるのか、大人より真剣に考えています。おそらく練馬区内の小中学校でもそういう取り組みをしていると思っています。

区の食育には、いろいろな取り組みがあり、子どもたちも若い世代も全部つながっていくことを意識してこのネットワーク会議を進めていきたいと思っています。このような取り組みを行っている、自分たちが住んでいる練馬区は素晴らしいと思っています。

(委員長) 学校の話が出たので校長先生、ご意見ありましたらお願いいたします。

(委員) 学校では、給食という生きて媒体に触れる機会がありますので、できるだけ残さないで食べようという話はしますが、区の食育のいろいろな打ち合わせに出席すると、残菜は区内小中学校合わせて平均 1 割ぐらいあります。日頃から残さず食べることは大事だと思いますが、アレルギーの子どもが増えたこともあり、食べられないものや食べたことのないものに手をつけない子どももいる。無理に食べなくてよいと言いつつも全部食べましようという矛盾を感じつつ、日々関わっているので残菜を減らすために何かできたらと思います。

小学校は半分ぐらいが 20 歳、30 歳代の保護者がいますので、大学の一部の人を対象にするより、我々のような機関を利用した方がアンケートも集まると思われ、アピールもできるのではないかと考えています。

(委員長) 貴重なご意見をありがとうございます。

(事務局) 企画ができたならご協力いただくと嬉しいです。

(委員) 大学との連携の話ですが、アンケートの行動変容とはどのようなものでしょうか。対象は食物学科の方でしょうか。

(事務局) 対象は日本女子大学の全学部の学生です。5000 名くらい在籍しているそうです。強制ではないので回収率等の詳細はまだわかりません。

(委員) 栄養学科の学生は食生活に関して知識や関心が高いので、回収されたアンケートが栄養学科の学生が多くなってしまわないかと疑問に思いました。

保育園の帰りにお弁当を買って帰るという話ですが、当店ではお弁当をメインに営業していますが、実際には配送がネックに上がってしまうためいろいろと課題はあります。保育園の送り迎えにお弁当が購入できる、そういった需要があると改めて思いました。食育応援店の冊子は届きましたが、人気があって 10 日くらいでなくなりました。

(事務局) 大学の先生から他学部の学生にもアプローチできるようなポスターを考えてみたらどうかと、学生にアドバイスがあったそうです。現在の進捗状況ですが、史学部対象に、徳川家康の長寿の秘訣は健康的な食事です、住居学部対象に、家の基礎は大事ですが身体の健康の基礎はバランスの良い食事です等、対象学部にあったポスターを作成中です。若い世代ならではのインパクトのあるポスターで、完成の際は皆さんにお披露目したいと思います。

(委員) 私は「ちゃんとごはん」での子どもの様子を紹介したいと思います。「ちゃんとごはん」は 3 時間くら

いで、一汁一菜の簡単な食事を作ります。でき上がった食事を食べるとき、私たちボランティアと友達と一緒に共食します。泣いている子も、怒っている子もいません。高学年の子は始め積極的ではないけれど、最後には楽しそうにしてリーダーシップを取ってくれる。「ちゃんとごはん」の時間は、共食もそうですが、私はいつも心を育てていると思っています。味噌汁の具が煮える間に、余談で旬のお野菜の話等の食育の話をしてします。例えば、野菜の花と実を写真で撮ってクイズを出す等、限られた時間なのでできることに限界はありますが、何か心に残るような楽しい時間にしたいと思っています。

場所と要請がないと私たちボランティアは活動もできない。先ほど保育園を使ってくださいとの話を聞きました、あとは周知の仕方。この会議で皆さんの意見を聞いて私も発信していきたいこれからもボランティアを続けて行きたいと思いました。

保育園のお弁当の話とても良い取り組みだと思います。子ども食堂は場所の都合上できない方も多いと聞いています。このお話をボランティアでもいいから関わりたい、そのような方に伝えたいと思いました。私には保育園に通っている孫がいますが、お弁当を買ったり外食に行ったりしていますが、そういった手作りのものが食べられたらよいと思いました。

(事務局) 「ちゃんとごはん」でもいつも楽しいお話をありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。

(委員) 私も「ちゃんとごはん」の子どもたちや高齢者に食育推進ボランティアとして関わっています。私、すべての課の中で、食に関するこの課がトップでもよいといつも思っています。今日この会議で、食品ロスやいろいろな方の深い大事なお話を伺い大変感激しました。食べることがいかに私たちの体を作っているか、日々の生活を作っているかと考えたときに、よいボランティアを始めたと、いつも思っています。できることは限られている、小さな一歩かもしれませんが、私は周りの友人達に、このレシピを手書きにして広める活動をしています。この会議に関わることで私の活動もさらにしっかりとしたものになると思います。

(事務局) いつも「ちゃんとごはん」ではお世話になっています。ありがとうございます。

(委員) 区内の保育園さんで和室を作ったからお茶を教えたいという依頼を受け、ボランティアで教えることになったのですが、その際に、実は管理栄養士で食育の話をしたら、では食育もお願いいたしますという話になりました。また、千葉県のある市で若い世代、と言っても大学生ではなくて 20 歳、30 歳代の小さなお子さんのいる家庭を対象に、食育事業の立ち上げに関わり始めました。皆さんの取り組みを興味深く聞かせていただきました。

(事務局) 若い世代への食育のお話をありがとうございます。また、詳しく聞かせてください。

(委員) 私もシルバー人材センターで活動していますが、高齢者の生活は大変だと思っています。食事も満足にできないが情報は持っている、改善したいと思っているけれどできないという話を聞きます。多くの論文が出て、正しい情報を何かの形で周知していく必要があると考えています。若い人はテレビや芸能人の偏った食生活がよいと思っている。エビデンスのあるデータで人間の体について、何かの形で伝えていくことが必要だと思う。Instagram や SNS 等の活用の仕方、区報も紙面が限られていると思うが、年齢の高い人や文字を読むことが好きな人は確実に読む。そ

れぞれ知恵を出しあい、しっかり検討して正しい情報を提供していきたい。

(事務局) 6月は食育月間ということで、6月11日号に「ちゃんごはん」等、区の食育の取り組みを載せています、ぜひご覧ください。毎号の掲載は効果的ですが、区報の活用の仕方も改めて考えたいと思います。

(委員) 教科書も含めて、いろいろな媒体がデジタル化され二次元コードで読み取れるようになっていきます。若い人は紙媒体よりもデジタルでの発信の方がよく伝わると思います

(委員長) ご意見ありがとうございました。資料3の9期の活動について案を取らせていただきますが、よろしいでしょうか。

(委員長) 案件4—3) 第9期1年目会議日程、資料4の説明をお願いします。

(事務局) 資料4の説明

(委員長) 第9期の1年目の提案をいたしました。皆さんお忙しいと思いますが、ご予定に入れておいてくださるようお願いいたします。

案件4—4) その他、庁内幹事からご紹介したい案件ということで、お願いします。

(幹事) 私たち清掃リサイクル課は、ごみの発生抑制および残菜の処理を主に行っています。学校給食の件ですが、実は学年が上がるごとに残菜が増えています。区の場合は肥料として再利用しているのですが、実質ではないのですが、肥料が増えればよいという話ではありません。区内に多くある農地で採れた野菜が私たちの口に入るという経験をすることで、残菜も減っていくと思います。私たちが小中学校で一緒に給食を食べるという活動を行いました、やはり他の人がいると子どもたちもたくさん食べてくれる。環境学習としては基本的にごみの分別です。校外に出て農作物と絡めた環境学習といったことを検討してほしいと思いました。

フードドライブ事業についてご説明します。情報紙「ゆずりは」の裏面下を見ながら話を聞いてください。家庭で余っている未利用食品を回収して、必要な所で活用してもらうフードドライブ事業を実施しております。以前はリサイクルセンターでイベントの開催に合わせて実施してきましたが、7月10日から、区内4か所のリサイクルセンターで常設窓口を開設しました。回収対象食品は、レトルト食品や缶詰等、常温で保存が可能な食品、未開封で賞味期限が2か月以上あるものです。お菓子やお米なども対象です。従来は、集めた食品を区外にも提供していましたが、今年度からは子ども食堂での提供等、すべて区内での活用となっています。

食品ロスの削減について、基本的には家庭内で消費するのが1番ですが、余剰食品があればフードドライブを活用するという、食品ロス削減の取り組みを広く知っていただきたいです。一昨年に実施したごみの排出調査でいうと、区内で約5,100トンの未利用食品があります。そのまま捨ててしまえばごみですが、回収すれば食品として活用できます。

このチラシを配布していただける方がいましたら、清掃リサイクル課までお問い合わせください。また、知り合いの団体で発行している会報誌等で事業を周知いただける場合、お声がけいただきたいです。よろしくお願いいたします。

(委員長) 区の清掃リサイクル課で実施しているフードドライブ事業のご紹介でした。何かご質問等いかがですか。

(委員) 受付場所をもう少し増やすことはできないのでしょうか。例えばスーパーや小売店、区の施設なら区民センター等近くにあると気軽に持っていくことができます。大泉学園町だけでも14万人いるのに大泉リサイクルセンター1か所しかない状況です。

(委員) ファミリーマートやユニクロ等の業者がそのような取り組みをしていると伺っています。申し訳ございませんが、今回はリサイクルセンターでフードドライブ事業を実施しているというご紹介です。今後、皆さんが持ち込みやすい場所についても、検討していきたいと思っています。

(委員長) お時間も迫って参りました。次回のスケジュールは10月19日です。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。第1回の食育推進ネットワーク会議を閉会いたします。